

論文審査の結果の要旨

氏名：溝 口 知 孝

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：Novel qEEG Biomarker to Distinguish Anti-NMDAR Encephalitis From Other Types of Autoimmune Encephalitis

（他の自己免疫性脳炎から抗 NMDAR 脳炎を鑑別するための新規 qEEG バイオマーカー）

審査委員：（主 査） 教授 吉 野 篤 緒

（副 査） 教授 木 下 浩 作 教授 鈴 木 正 泰

教授 新 見 昌 央

抗 NMDA 受容体脳炎は、興奮性シナプスの NMDA 受容体を標的とする抗 NMDA 受容体抗体が原因となる自己免疫性脳炎であり、自己免疫性脳炎の中ではもっとも頻度が高い。しばしば昏睡となるため、症状極期には ICU 管理を要するが、積極的な免疫療法により良好な転機が得られる。しかし、臨床現場では早期診断・治療導入に苦慮している。そこで、数多くの臨床症例における脳波周波数解析（パワー解析）により、自己免疫性脳炎である抗 NMDA 受容体脳炎の早期診断に特異的な所見を見出し報告している。主な結果は以下の通りである。

自己免疫性脳炎患者の入院時定量脳波（qEEG）解析から確立した（新規脳波指標である）fast slow ratio (FSR : power value of total beta / PV of theta + delta)は、カットオフ値（0.047）以上で抗 NMDAR 脳炎を他の自己免疫性脳炎と精度良く判別することが可能であり、早期の非侵襲的臨床指標として有用性が示された（FAS は、proNMDARE 基準（Graus 指針）と合わせて診断することで、自己免疫性脳炎患者における NMDA 抗体の陽性結果を示す有望な診断マーカーとなる）。

以上は、近年の神経内科領域のトピックスである自己免疫性脳炎における臨床的に示唆に富む有益な研究内容であり、同分野の今後の発展に大きく寄与する研究成果と考えられる。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

令和 5 年 2 月 22 日